

「より、そう、ちから。」を形に

東北電力㈱執行役員山形支店長

松岡 利彦氏



山形支店長に着任して間もなく2年となりますが、電力の小売全面自由化などによる競争の激化や送配電部門の法的分離など、当社を取り巻く事業環境は、まさに、現在進行形で大きく変化しています。

こうした中、競争力の強化を図っていくことや、配電部門の法的分離に的確に対応していくことは当社にとって重要な経営課題の一つであり、今年4月からカンパニー制を導入するとともに、7月に県内に配置している支店、営業所および技術センターにつきましても、それぞれ機能別に再編することとしました。一方で、いかなる環境変化がありましても引き続き、山形県を含む東北の成長や発展に貢献していくことは、決して変わらない使命であると考えています。

こうした考え方のもと、当社はコーポレートスローガン「より、そう、ちから。」を掲げ、スローガンの実現に向け、お客さま一人ひとりのニーズに“より沿う”新たな料金プラン・サービスの提供や、地域に“寄り添う”地域活性化に向けた取り組

みなどを進めているところです。

地域活性化に向けた取り組みにつきましては、地域のニーズに寄り添った活動を展開しています。山形支店では、山形商工会議所が中心となって開催されている各種イベントに協力し、支店の設備等を活用した観光支援活動を、昨年新たに実施しました。

1つ目は、県内最大のイベントである「山形花笠まつり」のパレードコースに面した山形支店前に、祭りの1ヶ月前からPR看板を設置するとともに、支店構内で行われている地中送電線の建設工事に伴い設置した工事用仮囲いを活用し、近隣幼稚園から協力をいただき、山形の四季をテーマにした壁画を制作いたしました。

2つ目は、「まるごと山形 祭りだ！ワッショイ！」において、文翔館前に特設ステージを設置し、山形交響楽団によるステージイベントなどをご覧いただきました。

両イベントとも、県内外から数多くの観光客の方が山形を訪れ、大変盛り上がりました。微力ながらご協力出来たのではないかと考えています。今後も地域の皆さまと一緒に、さらなる活動の充実につなげてまいりたいと考えています。こうした当社の取り組みが、いささかなりとも地域の活性化に結びつき、さらには、山形の成長・発展につながればと、大きく期待しているところです。こうした取り組みを進める中で、常々、実感いたしますのは、地域の皆さまの思いであり、熱意です。

こうした思いや熱意にお応えするためにも地域に“寄り添う”取り組みを、さらに充実していかなければならないと、強く感じているところです。引き続き、地元の電力会社として、創意・工夫を図りながら、地域に貢献し、地域とともに成長・発展できるよう、努めていきたいと思っています。

(写真は2017年11月、山形地区エネルギー懇談会等視察先の宮城県女川町の「シーパルピア女川」で撮影)



今月の表紙 「山形市七日町花小路」

ふるさと画家・上野啓太氏作。「わが町」をテーマに、イラストでまちおこし運動を行っている「やまがたマーチング委員会」(事務局・㈱大風印刷)提供。